

西洋建築史第7回

ルネサンス1 - 古典主義の誕生

中島 智章

序.イタリア・ルネサンスの時代区分

初期ルネサンス(1420年頃～): 古代建築からの着想と古代の建築語彙の復活(古典主義)、整数比例、透視図法

Filippo BRUNELLESCHI, フィラレーテ アントニオ・アヴェルリーノ FILARETE, Antonio AVERLINO, detto il(ca.1400-ca.1469), Leon-Battista ALBERTI

盛期ルネサンス(1480年頃～): ニコラウス5世 Nicolaus V, アレクサンデル6世 Alexander VI, ユリウス2世 Julius II, レオ10世 Leo Xなどの教皇の許、ローマで栄える

末期ルネサンス= マニエリスム(1520年頃～1580年頃): 規則を破る空間の遊び バロック建築の先駆け

Michelangelo, ジュリオ・ロマーノ Giulio ROMANO(1499-1546), ヤコボ・サンソヴィーノ Jacopo SANSOVINO(1486-1570), Andrea PALLADIO

1.ルネサンス建築の誕生 - パッツィ家礼拝堂 -

サンタ・マリア・デル・フィオーレ司教座聖堂 始まりはアルノルフォ・ディ・カンピオ Arnolfo di Cambioが設計したゴシック建築

色大理石をふんだんに用いた外壁(ただし、正面ファサードは19世紀の新設計)

Filippo BRUNELLESCHI (1377-1446)

* フィレンツェ司教座聖堂のクーポラ架構(1418, 1420-1436) バンテオン研究:アーチ リング

* オスペダレ・デリ・インノチェンティ=捨子養育院(1419, 1421-1445)

コリント式円柱、半円アーチのポルティコ(柱廊) ただし、古代建築のルールからは逸脱(エンタブレチュアなし)

* パッツィ家礼拝堂(1430年頃設計)

コリント式円柱、古代ローマ風ヴォールト装飾(格天井)を備えたポルティコ、ペンデンティヴ・ドーム

* サン・ロレンツォ聖堂(1421年起工)、旧聖具室(1421-34) メディチ家の隆盛(Lorenzo il magnifico)

コリント式円柱をアーケードに適用(エンタブレチュアも備える)、整数比に基づいた計画、ペンデンティヴ・ドーム

* サント・スピリト聖堂(1445-82): サン・ロレンツォ聖堂と同じコンセプトに基づく

2.アルベルティの理論と実践 - テンピオ・マラテスティアーノ -

Leon-Battista ALBERTI (1404-72)の建築物論 *DE RE AEDIFICATORIA*を1452年に出版 ウィトルウィウスの影響

第1書: 建築の諸要素(敷地、床面、分割、壁、覆い、開口)

第2書: 資材

第3書: 構法

第4書: 公共施設

第5書: 各種住宅など

第6書: 建築装飾

第7書: 公共宗教建築とその装飾(神殿、3種の柱形式+イタリア式)

第8書: 公共世俗建築の装飾

第9書: 私邸の装飾(数比例も)と建築家: ARCHITECTVSの職能

第10書: 修復術

* アルベルティ、レオン・パッティスタ: 『建築論』、相川浩訳、中央公論美術出版、東京、1982年

サンタ・マリア・ノヴェッラ教会堂のファサード(フィレンツェ、1458-70) 整数比例を活用した設計

サンタンドレア教会堂(マントヴァ、1472～) 凱旋門モチーフの使用

テンピオ・マラテスティアーノ(マラテスタ家霊廟) コリント式円柱とアーケードの使用

3. 盛期ルネサンスの建築 - サンタ・マリア・ブレッソ・サン・サティロ教会堂 -

Donato BRAMANTE (1444?-1514) 画家出身の建築家

- * サンタ・マリア・ブレッソ・サン・サティロ教会堂(1482-86): 内陣部分を透視図法によって処理
- * サンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会堂内陣(1492-97): 修道院内に「最後の晩餐」
- * テンピエット(1502-10): サン・ピエトロ・イン・モンテリオ教会堂の中庭に建つ小聖堂
- * バチカン宮殿のベルヴェデーレの中庭(1503-13): 中庭端部に古代ローマ風のアプスを持つ
- * サン・ピエトロ使徒座聖堂計画案: コンスタンティヌス帝以来の初期キリスト教建築の建て替え
中央に直径42メートルほどのドームを戴いたギリシア十字形の集中式プラン
ドームを支える四本の支柱の太さが不十分で未完成に終わる

4. マニエリスムの新しいデザイン手法 - パラッツォ・デイ・コンセルヴァトーリ -

Michelangelo BUONARROTI (1475-1564)

- * サン・ピエトロ使徒座聖堂改築事業の完成(1546)
ブラマンテのギリシア十字形集中プランを復活させるが、全体の規模をやや縮小した上で、構造の強化を図る
- * カンピドリオ広場(1536-) = かつてのカピトリムヌの丘
楕円形を描くペーヴメントと台形の広場 中央にマルクス・アウレリウス帝騎馬像(コンスタンティヌス帝とされていた)
- * パラッツォ・デイ・コンセルヴァトーリ、ローマ市庁舎 1階につきオーダーという初期、盛期ルネサンスの常識を覆す
1階と2階をぶちぬいた巨大なコリント式オーダーの使用 = 大オーダー、ジャイアント・オーダー
+ 1階のポルティコに施された通常のスケールのイオニア式オーダー
- * パラッツォ・ファルネーゼ: 3階建ての最上階に施された巨大なエンタブレチュアが大オーダー的
バルダッサレ・ペルッツィ
Baldassare PERUZZI: パラッツォ・マッシモ(ローマ)
ドリス式の円柱をペアにして列柱を形成する双子柱(ペア・コラム、カップルド・コラム)の技法
円柱は一定間隔に並んでいるという初期、盛期ルネサンスの常識を覆す
- Andrea PALLADIO(1508-80) パドヴァ生まれ、ヴィチェンツァにて没
石工としてのキャリア(-1540) ローマ旅行(1541、1547、1549) 古代や巨匠たちの建築の知見
- * 四つのビルディング・タイプ = パラッツォ(都市内の邸宅)、ヴィッラ(田園地帯の邸宅)、教会堂、劇場
パラッツォ・デッラ・ラジオーネ = バジリカ・パラディアーナ*(1549) .20.1-6 パラディアン・モチーフ
パラッツォ・ヴァルマラーナ*(1554-58、1565-71) .3.18-19 ジャイアント・オーダーのピラスター(付柱)
ヴィッラ・カーブラ*(ヴィッラ・ロトンダ、1565-69) .3.20-21 四面对称、中央にクーポラ(ドーム)付の広間
ロτζィア・デル・カピタニャート(1565-72) ジャイアント・オーダー
スカレッテ記念門(1575、1595) ティトゥスの凱旋門からインスピレーションを得る
サン・ジョルジョ・マッジョーレ修道院聖堂(1564-1610)、イル・レデントーレ聖堂(1576-92) ヴェネツィア本国の作品
テアトロ・オリンピコ(1580-1584) 遺作 古代劇場から着想を得る 一点透視図法的な舞台も持つ
- * PALLADIO, Andrea: *I quattro libri dell'architettura*, 1570 『建築四書』: 自作紹介(第2書)、古代建築実測図(3、4)
* 桐敷真次郎編著: 『パラディオ「建築四書」注解』、中央公論美術出版、東京、1986年。

5. ヴィニョーラによるオーダー理論の構築

5種のオーダー(トスカナ式、ドリス式、イオニア式、コリント式、コンポジット式)の成立

ジャコモ・パロツィ・ダ・ヴィニョーラ

Giacomo-Barozzi da VIGNOLA (1507-1573): *La regola delli cinque ordini d'architettura*, 1562.

- * ヴィニョーラ、ジャコモ・パロツィ・ダ: 『建築の五つのオーダー』、長尾重武編、中央公論美術出版、東京、1984年